

引用文献

- Aiken, L, Benner, P, Watson, J, Clifford, J ら/和泉成子監訳 (2008). 看護の危機 人間を守るための戦略. ライフサポート社, 34-39, 88-96.
- Bandura, A 編/本明寛 他 監訳 (1997). 激動社会の中の自己効力. 金子書房.
- Benner, P. (2001). From Notice to Expert: Excellence and Power in Clinical Nursing Practitce, Commemorative Edition. Upper Saddle River, NJ: Prentice Hall/井部敏子 (監訳). (2005). ベナー看護論 新訳版ー初心者から達人へ. 医学書院.
- Benner, P. et. al. (1996). Expertise in Nursing Practice-Caring, Clinical judgment, and Ethics-, Spring Publishing Company, 5-11.
- Benner, P, Wrubel, J (1989)/難波卓志 (1999). 現象学的人間論と看護. 医学書院.
- Corcoran, S. A. (1990). 看護における Clinical Judgment の基本概念. 看護研究, 23 (4), 4-12.
- Dewey, J/市村尚久 訳 (2004). 経験と教育. 講談社学術文庫.
- 江頭 洋祐 (2005). 看護大学における漢方教育の実践とその成果について(40 調査・教育, 第 56 回日本東洋医学会学術総会). 日本東洋医学雑誌 56 Supple, 253.
- 江口優子, 竹森志穂, 吉田千文, 山田雅子. (2016). 看護職の漢方医学に関する認識と学習ニーズ. 聖路加看護学会誌, 20 (1).
- Giorgi, A. P. (2004). 現象学的運動と人間科学的研究. 看護研究, 37 (5), 379-392.
- 花井正美, 西村ユミ (2000). 看護における全体性の概念. 日本看護科学会誌, 20 (2), 46-54.
- 原敬二郎. (2000). 服薬説明に必要な漢方薬の基礎知識. 薬局, 51 (12), 21-26.
- Henderson, V. A. (1960)/湯楨ます, 小玉香津子(2006). 看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会.
- 東さとえ (1994). 看護過程の理論モデルの構築に関する研究 (1) 看護過程の概念の史的考察. 神戸市立看護短期大学紀要. 第 13 号, 61-73.
- フッサール, E (1995). ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学. 細谷恒夫, 木田元訳. 中公文庫, 235.
- フッサール, E (1979). イデーエン I-1. 渡辺二郎訳. みすず書房, 21.
- 飯塚麻紀, 鴨田玲子 (2010). 臨床判断研究の文献レビュー (1998 年~2007 年). 福島県立

- 医科大学看護学部紀要, 第 12 号, 31-42.
- 今津嘉宏, 金 成俊, 小田口 浩, 柳澤 紘, 崎山武志. (2012). 80 大学医学部における漢方教育の現状. 日本東洋醫學雑誌, 63(2), 121-130.
- 岩田健太郎, 徳永哲, 平尾真智子, 丸山建夫, 今岡浩一, 岩田恵理子, 百島祐貴. (2021). ナイチンゲールの越境 2 ナイチンゲールはなぜ「換気」にこだわったのか. 日本看護協会出版会.
- 川渕孝一. (1996). 医療・看護の変革とインフォームド・コンセント. 医学書院, 7-10, 39-43.
- 川上武, 藤井博之, 梅谷薫, 山内常男 (2006). 日本の「医療の質」を問い直す. 医学書院, 2-39 132-152.
- 川島みどり. (2015). いま看護を問う. 東京. 看護の科学社.
- 川島みどり. (2014). ケアにおける“手”の有用性. コミュニティケア, 16 (13). 102-103.
- 川島みどり, 日野原重明, 石飛幸三. (2012). 看護の時代 看護が変わる 医療が変わる. 東京. 日本看護協会出版会.
- 川島みどり. (2009). 看護の危機と未来 今、考えなければならない大切なこと. ライフサポート社.
- 木田元. (1970). 現象学. 岩波書店, 45.
- 金成俊, 坂田幸治, 中村恵子, 山田陽城, 緒方千秋, 花輪壽彦. (2005). 北里研究所東洋医学総合研究所における初診患者の解析と医療への活用. 日本東洋醫學雑誌, 56(2), 287-293. 北村聖 (監修). (2013). 看護師のための漢方薬がわかる本. 協和メドインター, 94-98.
- Kolb, D. A. (1984). *Experiential Learning: Experience as the Source of Learning and Development*, Prentice Hall.
- 小曾戸洋. (2014). 新版 漢方の歴史 ー中国・日本の伝統医学. 大修館書店, 5, 97-100, 166-220.
- 本谷久美子, 藤村朗子. (2013). がん患者の補完代替療法に関する看護師の経験とその困難ー大学病院看護師を対象としてー. 日本がん看護学会誌, 27 (1), 31-41.
- 松葉祥一, 西村ユミ 編 (2014). 現象学的看護研究ー理論と分析の実際. 医学書院, 51-52.

- 松尾 睦. (2006). 経験からの学習—プロフェッショナルへの成長プロセス—. 同文館出版.
- 松谷美和子, 三浦友理子, 平林優子, 佐居由美, 卯野木健, 大隈香, 奥裕美, 堀成美, 井部俊子, 高屋尚子, 西野理英, 寺田麻子, 飯田正子, 佐藤エキ子. (2010). 看護実践能力 概念、構造、および評価. 聖路加看護学会誌, 14 (2), 18–28.
- Merleau-Ponty, M (1979). 世界の散文. 滝浦静雄, 木田元訳 (2004). みすず書房, 113.
- Merleau-Ponty, M (1945 a). 知覚の現象学Ⅱ. 竹内芳郎, 小木貞考訳 (2004). みすず書房.
- Merleau-Ponty, M (1945 b). 知覚の現象学Ⅱ. 竹内芳郎, 木田元, 宮本忠雄訳 (2004). みすず書房.
- Merleau-Ponty, M (1964). 眼と精神. 滝浦静雄, 木田元訳 (2005). みすず書房, 189.
- 村上靖彦. (2013). 摘便とお花見 看護の語りの現象学. 東京：医学書院.
- 中原 淳. (2013). 経験学習の理論的系譜と研究動向. 日本労働研究雑誌, No. 639.
- 中野榮子, 安酸史子, 山住康恵, 東あゆみ, 八尋陽子, 佐藤香代. (2013). 看護基礎教育における漢方医療教育の実態. 福岡県立大学看護学研究紀要, 10 (2), 65-71.
- 中野榮子, 安酸史子, 佐藤香代, 小松啓子, 津田智子, 岡村真理子ら. (2011). 東洋医療に関する日本と韓国の看護学生の意識調査. 福岡県立大学看護学研究紀要, 8 (1), 27-35.
- 並木隆雄, 笠原裕司, 関矢信康他 (2009). 入院での漢方薬取り扱いの問題点—薬剤師及び病棟看護師に対するアンケート調査からの検討—. 日本東洋医学雑誌, 60 (2), 185-193.
- 鳴井ひろみ, 本間ともみ, 三浦博美, 井澤美樹子, 吹田夕起子, 出貝裕子ら. (2007). 代替療法を取り入れるがん患者の医療者への相談状況と期待. 青森県立保健大学雑誌, 8 (1), 53-61.
- 鳴井ひろみ, 本間ともみ, 三浦博美, 井澤美樹子, 吹田夕起子, 出貝裕子ら. (2006a). 代替療法を取り入れるがん患者の実態. 青森県立保健大学雑誌, 7 (2), 213-222.
- 鳴井ひろみ, 吹田夕起子, 出貝裕子, 三浦博美, 本間ともみ, 井澤美樹子ら. (2006b). がん患者の代替療法に対する看護職者の認識. 青森県立保健大学雑誌, 7 (2), 177-186.
- Nightingale, F (1860) / 湯楨ます 監修 (1977). 思索への示唆 (抄) ナチングール著作集 第三巻, 141–241, 現代社.
- Nightingale, F (1859a) / 湯楨ます・薄井担子・小玉香津子他 (1983). 看護覚え書き (第4版), 現代社.

- Nightingale, F (1859b) /小玉香津子, 尾田葉子 (2004). 看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護, 135-161, 日本看護協会出版会.
- 日本漢方生薬製剤協会 (2011). 漢方薬処方実態調査 (定量) Summary Report. Retrieved from <http://www.nikkankyo.org/aboutus/investigation/pdf/jittaichousa2011.pdf>
- 日経メディカル開発 (2012). 漢方薬使用実態・意識調査 (2012). Retrieved from http://nmp.nikkeibp.co.jp/kampo/pdf/kampo_result2012.pdf
- 西村ユミ (2017). ケアの実践を記述すること/自らの視点に立ち帰ること. 西村ユミ, 榊原哲也編著. ケアの実践とは何か: 現象学からの質的研究アプローチ (p22-44). 京都: ナカニシヤ出版.
- 西村ユミ (2001). 語りかける身体: 看護ケアの現象学 (p210). 東京: ゆみる出版.
- 西田清一郎, 佐藤広康. (2007). 奈良県立医科大学における東洋医学に対する意識調査ー3 学年間の追跡調査ー. 日本東洋医学雑誌, 58 (2), 291-297.
- 新田義弘 (2013). 現象学. 講談社, 29.
- 新田義弘 (2006). 現象学と解釈学. 筑摩書房, 7.
- 大野ゆう子, 清水佐知子, 笠原聡子. (2007). 中医学(東洋医学)の保健・看護学領域学部教育および大学院教育への導入の試み 1996年から2006年まで. 大阪大学看護学雑誌, 13 (1), 19-23.
- 大塚敬節. (2001). 新装版 漢方医学. 創元社, 15-37.
- Orlando, I. J. (1961). /稲垣八重子訳 (1979). 看護の探求ーダイナミックな人間関係をもとにした方法. メディカルフレンド社.
- Rogers, M. E. (1991). ロジャーズの概念枠組み “宇宙時代における看護”. 看護研究, 24(3), 268-279.
- Rogers, M. E. (1970)/樋口康子, 中西睦子(1979). ロジャーズ看護論. 医学書院.
- 榊原哲也. (2018). 医療ケアを問い直すー患者をトータルにみることの現象学(第1刷). 東京: 筑摩書房.
- 榊原哲也. (2011). 現象学的看護研究とその方法 新たな研究の可能性に向けて. 看護研究, 44 (1).
- 坂本玄子. (2006). 看護歴史研究50年・『病家須知』に至るまで サークル集団学習を貫いて. 看護教育, 47 (11) 増刊号, 954-961
- 佐藤寿一. (2008). 漢方医学卒前教育コア・カリキュラムの標準化. 医学教

- 育, 39(suppl), 43.
- 鈴木守. (2002). 医学教育コア・カリキュラムへの漢方医学の導入. 漢方と最新治療, 11, 213-216.
- 趙 重文, [丁 宗鐵](#). (2000). 漢方薬服用患者が抱きやすい疑問・不安への対応. 薬局, 51(12), 29-36.
- 高橋 研一, 鈴木 けい子, 王 財源, 中吉 隆之, 山本 博司, 吉備 登. (2007). 医療系の学校における CAM に関連するカリキュラム調査. 慢性疼痛, 26 (1), 101-110.
- 竹田青嗣. (1989). 現象学入門. NHK 出版, 146.
- 竹森志穂, 江口優子, 吉田千文, 山田雅子. (2016). 漢方医学に関する看護師の生涯教育の検討. 聖路加看護学会誌, 19 (2).
- 谷 徹. これが現象学だ. (2002). 講談社, 31.
- Tanner, C. A. (2006). /後藤桂子, 堀内成子 (2016). 看護師のように考える 研究に基づく看護の臨床判断モデル. 看護管理. 26 (11). 994-1005.
- 丹村敏則. (2014). 病棟看護師に対する漢方教育の意義と必要性ー急性期病棟で漢方薬治療が著効した 10 症例からの検討ー. 漢方医学, 38 (1), 67-71.
- 寺沢捷年. (2015). 和漢診療学 新しい漢方. 岩波新書, 180-198.
- 寺沢捷年. (2004). 医療教育と漢方医学. 国際「統合医療」元年. 第 1 回国際日本統合医療専門家会議公式記録集, 47.
- 寺沢捷年. (1996). 絵で見る和漢診療学. 医学書院, 74-89.
- 藤内美穂, 宮腰由紀子 (2005). 看護師の臨床判断に関する文献研究ー臨床判断の要素および熟練度の特徴ー. 日本職業・災害医学学会誌, 53 (4), 213-219.
- 津田篤太郎. (2015). 漢方水先案内: 医学の東へ (シリーズケアをひらく). 医学書院.
- 津田篤太郎. (2014). 病名がつかない「からだの不調」とどうつき合うか. ポプラ新書, 21-42.
- 津田篤太郎, 森まゆみ (2013). 未来の漢方ーユニバースとコスモスの医学. 亜紀書房.
- 上荷裕広. (2012). 子どもと親への服薬指導・服薬支援. 小児看護, 35 (6), 752-759.
- Van Manen, M (1990). Researching Lived Experience. USA. : The State University of New York. 9.
- 渡辺賢治. (2015). 漢方医学の標準化 国際化への対応と課題 問診からの診療支援ツール開発. 日本東洋医学雑誌, 66 (別冊), 138.

渡辺賢治. (2013). 漢方医学. 講談社, 6-47.

渡辺賢治. (2007). 21 世紀の日本の東洋医学の進路を探る 漢方の国際化に向けての戦略.

日本東洋医学雑誌, 58 (4), 594-599.

矢久保修嗣, 木下優子, 上田ゆき子, 小泉久仁弥, 藤田之彦, 新見正則ら. (2011).

健康教育を将来担う大学生に対する漢方医学教育. 日本東洋醫學雑誌, 62(1), 65-69.